

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月14日

広島電鉄株式会社 (証券コード：9033)

 広電宮島口駅  
Hiroden-miyajima-guchi Station

# 2023年3月期第2四半期 連結経営成績

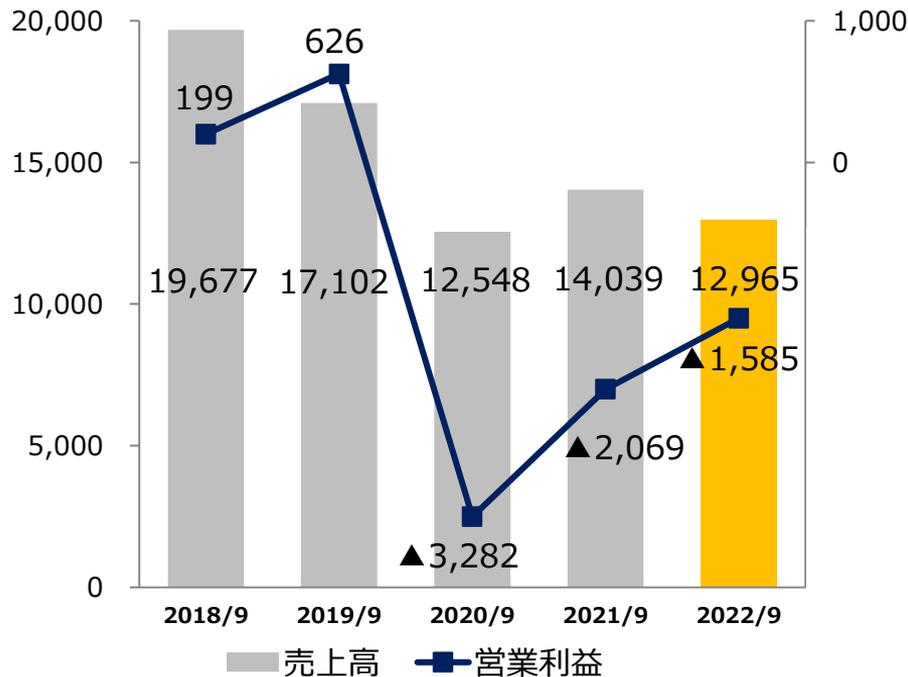
(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
売上高	14,039	<b>12,965</b>	△1,074 (△7.7)	運輸業では需要の回復傾向が見られ、電車・バス共に前年と比べ増収となったが、不動産業において前年同期に分譲マンションの全戸販売完了により売上を大きく伸ばした反動が影響し、全体としては減収
営業利益	△2,069	△ <b>1,585</b>	+484 (-)	
経常利益	△2,058	△ <b>1,493</b>	+565 (-)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△1,320	△ <b>42</b>	+1,277 (-)	特別損益において「固定資産売却益」や「退職給付信託返還益」を計上
1株当たり 四半期純利益	△43.50円	△ <b>1.41円</b>	+42.09円	

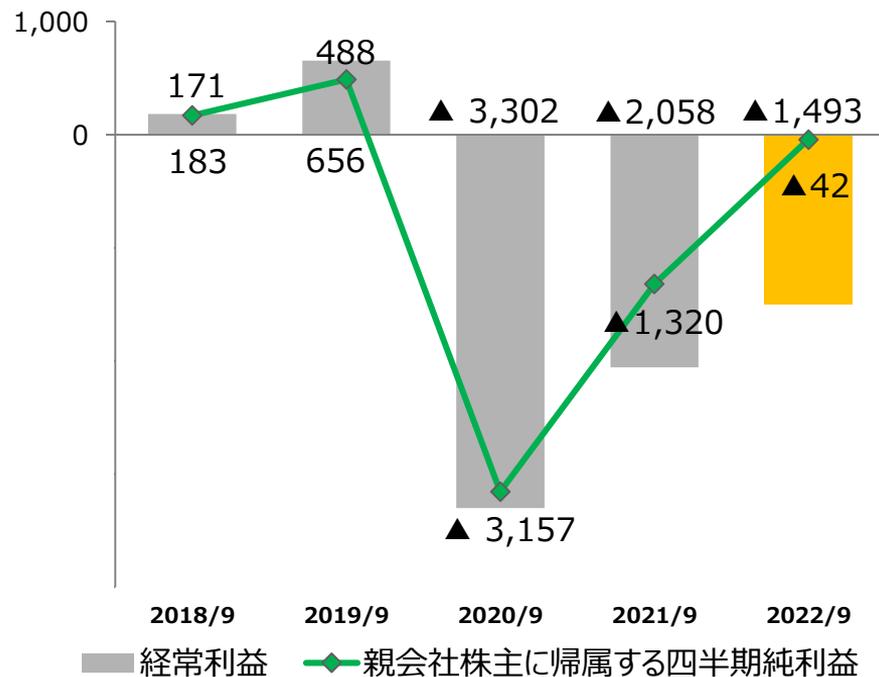
# 連結業績の推移 (第2四半期)

(百万円)

## 売上高・営業利益



## 経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



# 連結貸借対照表(B/S)

(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
流	動 資 産	12,938	12,531	△407	受取手形、売掛金及び契約資産+408 その他+358 現金及び預金△1,233
固	定 資 産	79,565	78,392	△1,172	有形固定資産△1,010
資 産 合 計		<b>92,503</b>	<b>90,924</b>	△1,579	
負	流 動 負 債	23,454	23,942	+488	短期借入金+487 預り金+1,680 未払金△1,559
	固 定 負 債	30,354	28,854	△1,499	長期借入金△1,053
	負 債 合 計	<b>53,808</b>	<b>52,797</b>	△1,011	
純	株 主 資 本	13,903	13,873	△29	利益剰余金の減少
	その他の包括利益累計額	23,910	23,440	△470	退職給付に係る調整累計額△306
	非支配株主持分	881	812	△68	
純 資 産 合 計		<b>38,695</b>	<b>38,126</b>	△568	
負 債 純 資 産 合 計		<b>92,503</b>	<b>90,924</b>	△1,579	

# 連結損益計算書 (P/L)

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
営業収益	14,039	12,965	△1,074	
運輸業等営業費及び売上原価	13,223	11,869	△1,353	
販売費及び一般管理費	2,885	2,680	△205	
営業損失(△)	△2,069	△1,585	+484	
営業外収益	115	205	+89	受取配当金+48 持分法による投資利益+27
営業外費用	104	113	+8	
経常損失(△)	△2,058	△1,493	+565	
特別利益	623	1,729	+1,105	固定資産売却益+542 退職給付信託返還益+483
特別損失	15	183	+167	固定資産除却損+108 固定資産圧縮損+64
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,451	52	+1,503	
法人税・住民税及び事業税	△27	21	+49	
法人税等調整額	△3	139	+143	退職給付信託返還にかかる繰延税金負債計上+129
四半期純損失(△)	△1,420	△109	+1,310	
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△99	△66	+33	
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,320	△42	+1,277	

# 連結キャッシュ・フロー(C/F)

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,212	△68	+1,143	建設業の売上債権の増加などが影響したものの、税金等調整前四半期純利益を計上したことにより改善
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,269	△486	+1,783	宮島口整備事業等の設備投資を行ったものの、広電三井住友海上ビルの自社所有分売却などが影響
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,353	△681	△3,034	有利子負債の削減が影響
現金及び現金同等物の増減額	△1,128	△1,236	△107	
現金及び現金同等物の期首残高	5,210	5,194	△16	
現金及び現金同等物の期末残高	4,081	3,958	△123	

# セグメント別経営成績①運輸業

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	7,321	<b>8,427</b>	+1,106 (+15.1)	
セグメント利益	△3,207	△ <b>2,052</b>	+1,155 (-)	鉄軌道事業及び自動車事業では、前年度と比べ今年度は行動制限の無い状態で推移したことにより輸送人員が増加し、増収
運行補助金	220	<b>209</b>	△10 (△4.8)	海上運送業および索道業では、宮島来島者が前年同期と比較し大幅に増加したことにより、増収
運行補助金を 含めた損益	△2,987	△ <b>1,843</b>	+1,144 (-)	



# セグメント別経営成績②流通業

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	553	<b>481</b>	△72 (△13.2)	前年度と比べ今年度は行動制限の無い状態で推移したことにより、宮島サービスエリアの売上高は前年を大きく上回ったものの、2022年3月の下松サービスエリアの営業終了に伴い前年同期と比較し、減収
セグメント利益	△34	<b>△0</b>	+34 (-)	

# セグメント別経営成績③不動産業

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	4,502	<b>1,649</b>	△2,852 (△63.4)	不動産賃貸業において、2021年9月のファミリータウン広電楽々園ナイスディ棟の閉館や、2022年5月に賃貸ビル「広電三井住友海上ビル」の自社所有分を売却した影響により減収 不動産販売業において、前年度に分譲マンション「ザ・府中レジデンス」の全戸販売完了の反動に伴い、減収減益
セグメント利益	1,128	<b>395</b>	△733 (△65.0)	

# セグメント別経営成績④建設業

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	2,156	<b>2,533</b>	+376 (+17.4)	官公庁工事や民間工事の減少による減収影響はあったが、広島市大塚中央土地区画整理事業の工事の進行により、増収
セグメント利益	81	<b>31</b>	△50 (△61.8)	

# セグメント別経営成績⑤レジャー・サービス業

(百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	増減 (%)	主な増減要因
セグメント収益	407	<b>460</b>	+53 (+13.2)	ゴルフ業では、特別オープンコンペの開催やお得なWebプランを複数企画し集客に努めたことに加え、プレミアム会員及び入会金収入の増加により前年同期に比べ増収 ボウリング部門では、一般来場者及び会員来場者の回復により前年同期に比べ好調に推移
セグメント利益	10	<b>43</b>	+32 (+307.5)	

# 2022年度の主な設備投資予定（連結）

## 電車

	導入数	金額
宮島口整備事業 ※2022年度完成予定		883百万円
5200形グリーンムーバーAPEX	1編成	440百万円
広島駅前大橋ルート整備事業		109百万円

## 自動車

	導入数	金額
自動車事業用車両購入	25両	680百万円



▲5200形グリーンムーバーAPEX



▲広島駅前大橋

# 2023年3月期 連結通期業績予想

(百万円)

	2022年 3月期実績	今回予想	増減 (%)	主な増減要因
売上高	27,395	<b>27,820</b>	+424 (+1.6)	新型コロナウイルス感染拡大の第7波の収束や、政府による入国時の水際対策緩和や全国旅行支援が開始されたことにより人流の回復が進むと想定
営業利益	△4,523	<b>△3,070</b>	+1,453 (-)	
経常利益	△4,447	<b>△3,040</b>	+1,407 (-)	運輸業においては原油価格の高騰に伴う電動費、燃料費の増加が見込まれ、建設業においても各種資材高の影響を受け利益率の低下が見込まれるものの、退職給付信託設定株式の返還等により特別損益が好転し、通期では親会社株主に帰属する当期純利益を計上する見込み
親会社株主に帰属する 当期純利益	△1,053	<b>660</b>	+1,713 (-)	

# 連結業績予想の前提条件

## 【収入の見通し(セグメント別)】

セグメント	収 対 前 年 入 比	備 考
運 輸 業	+16%	感染拡大の第7波の収束や、政府による入国時の水際対策緩和や全国旅行支援の開始により、一定程度人流の回復が進むものと想定
流 通 業	△23%	宮島来島者数、高速道路利用者数の回復を見込むが、前年の下松SAの撤退に伴う減収を想定
不 動 産 業	△52%	2022年3月期に分譲マンション「ザ・府中レジデンス」の全戸販売収入を計上した反動による減収を想定
建 設 業	+10%	宮島口整備事業など当社グループ向け工事や、民間工事の受注増加を想定
レジャー・サービス業	+6%	ゴルフ業、ボウリング業での来場者数や会員数の増加、今年度より開業のジム業の増収を想定

---

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【問い合わせ先】

広島電鉄株式会社

経営管理本部 経理部 経理課

TEL 082-242-3542